

法律科目試験 「刑事法系」 問題

I 次の事項について、400字以内で説明しなさい。

- ・拐取罪の保護法益

II 次の事例における甲の罪責を論じなさい（特別法違反の点は除く。）。

甲（男、30歳）は、妻が幼子Xを置いて他の男と駆け落ちしたため、爾来働きながら一人でXを育てていたが、Xは甲に懐かなかつた。やがて甲は、A（女、20歳）と再婚し、同居を始めた。Xの世話は主にAが引き受けたが、XはAにも懐かず、甲とAは次第にXを疎ましく感じ出し、特にAは甲の目を盗んで時折Xに虐待を加えるようになった。そのようなことから、徐々に家庭の空気が荒み始め、甲は仕事が終わっても真直ぐ家に帰らずに外で一杯引っ掛けて来るのが習慣化した。

或る日の仕事帰り、持ち合わせがなかったにも拘らず無性に酒が飲みたくなった甲は、代金を支払わずに逃げるつもりで、それまで入ったことのない居酒屋を選んで入店した。そして、3000円相当の品を注文して飲食した後、店員の隙を見て店から逃げ出した。甲は約100メートル先で、追って来た店長Y（男、40歳）に捕まえられたが、甲が語気鋭く、自分は某暴力団の組員でありお前の店ぐらひは簡単に潰せると虚言を弄して支払を拒絶したところ、この言葉を信じて後難を恐れたYは、代金の請求を断念して店に戻った。

甲が帰宅すると、風呂場から大きな声や物音が聞こえて来た。不審に思った甲が恐る恐る様子を見に行くと、X（本件当時4歳）が普段にもまして反抗的で言い付けを守らないのに激昂したAが、Xを湯船の中に沈めて殺そうとしており、抵抗するXが暴れていた。Aが常日頃からXを嫌悪していることを知る甲は、Aの殺意を察知すると共に、Xがいなくなれば今後はAと二人で平穏に暮らして行けると思い、見て見ぬ振りをして自室に引込んだ。Aは甲に気付かないまま殺害行為を継続し、約3分後にXを溺死させた。AはXが一人で浴槽に落ちて事故死したと装うつもりであったため、もし風呂場で甲から声を掛けられていれば、直ちに犯行を思い止まっており、Xが死ぬことはなかった。甲もまた、Aを制止することは容易であると思っていた。